

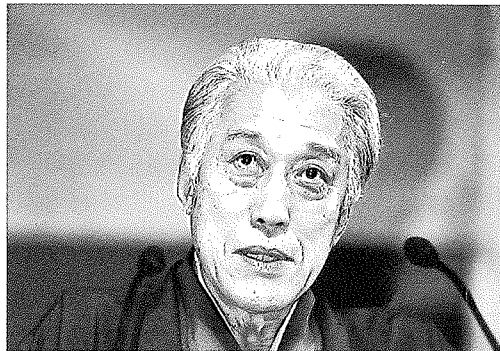
基調講演

R.I.元理事・裏千家家元 千 宗室

「ロータリーの心」

只今から私が「ロータリーの心」と言うことでお話を申し上げるのでありますけれども、今は大変すばらしいフォーゲルさんから会長代理としてのご挨拶をお伺いいたしました。キンロス会長の“care of Rotary” 私達は、いったいロータリーというものについてどのような心を持って地域社会に臨んでいかなきゃならないか、というような事などをしみじみと考えさせられた訳でございます。人と人との出会いというもの、これは大変な事であると思います。そして今日もこの会場で初めてお会いになる方もあるでしょう。また、前からお知り合いになっている方もあるでしょう。しかし、この会場へ来たがために、より以上にお互いが知りあうという機会を得られたものと思っております。

私は今朝、中国の副首相に今度なられました胡錦濤さんと席をともにしました。年齢から言えばまだ若く55歳であります。江沢民共産党首席の後を受けるという俊才でございます。私は胡錦濤さんとは今からちょうど18年前に初めて人民大会堂でお茶会をいたしました時においでになって、それ以来ずっとお付き合いをしておりました。まさか18年たった今日彼が中国共産党、主導部のトップまで上がっている。そうられるとは思ってもよらなかったんでございます。でも一碗のお茶がとり持ってくれまして、胡錦濤さんは、その時は全国青年部の会長である、いわゆる全青協という青年協議団体の代表であったのであります。私もかつて日本青年会議所の会頭をいたしましたし、国際青年会議所の副会頭も勤めさせていただきましたので、よく話が合ったのであります。それから4・5回お目にかかりまして、今日公式訪問ということで日本へ来られました。京都へ昨日からお



いでになりまして、どうしても今日は表敬訪問するというので、1時間、時間をとられまして、私の方でたて一服のお茶を通じまして、いろいろ心の交流ができたのでございます。私にとりましても胡錦濤さんにとりましても本当に一期一会のよき機会でした。

“One time one chance”あるいは“One time one opportunity”とでも申しますか、本当に人と人との出会いというものを私は大切であったなあとは思ひじみ今日もそれを感じたのでございます。それと同じように私達は、このロータリーへ入った為に随分いろんな方と出会っているのです。私はこちらのフォーゲルさん、会長代理として奥様と一緒においでになりましたが、これまた15年程前にお互いに国際協議会でガバナーを教育しますディスカッションリーダー、そのリーダーとしてご一緒にお勤めをさせていただきました。当時はボカトンと申しますフロリダの場所でございますけれども、それからフォーゲルさんとは親交ができて、私より先に理事をお勤めになりましたが、本当にいつも美しい奥様とお二人で仲良くロータリーの奉仕活動（お世辞じゃありませんよ）すばらしいナイスカップル、奉仕活動をなさっていらっしゃる。今、いわゆる彼にとりましては、この京都へ来られて山田ガバナーと出会われたということもまた、これひとつの、これからのフォーゲルさんと山田さんの人生のあゆみがまた新しい友情で進むことでしょう。

ポールハリスはいろんなところでいろんな人と出会っているのです。ポールハリスさんの誕生日が4月の19日。誠にあつかましくございますけど、ポールハリスさんと私は同じ誕生日なんでござい

ます。そういう次第で私の言う事をちょっとポールハリスさんが言っていると思って聞いて頂いたら大変有り難く思います。

ロータリーの心とか精神とかいろいろ聞かれるであります。その時にいろんな事を頭に浮かべて皆さん方は答えられるに違いないけれど、まず一番簡単に口から出てくるのは、ロータリーの精神・心とはいわゆる寛容、トレランスそれは言い換えれば善意の心である。そういうように答えると言うことが一番適当ではなからうかということを行っているのです。これはポールハリスがそれぞれ人間は顔形が違うのと同じようにその持っておられる心もはかりがたいものがある。いわゆる様々な心を持った会員をなんとか取りまとめて、とにかく今日のようなロータリーの基礎を築いたということは、いわゆるポールが設立当初に言われた寛容と善意というものがあってこそロータリーが今日までここに続いたと私も思っております。その根底となるのは、どういうことであるかと申しますと“Avoid discussion subject”いわゆる喧嘩になるような議論は避けて通れ、これはポールハリスのいつも言っている言葉なんです。いわゆるロータリアンは善意の人達の集まりであるから、議論をしても喧嘩にはならないかもしれない。しかしながら時にはその議論が熱中してきて仲違いするかもしれない。そういうことはあってしかるべきことであるけれども、なるべく“Avoid discussion subject”というような気持ちでお互いが折れ合うということ。折れ合うという事が非常に大事だということ。これも最初に私が申しました「寛容」ということで、そういうことが大きな土台になっているわけですね。私も理事会へ出まして、いつもあの理事会で出る言葉は“Recognize”その何でも承認する・認める、決して頭から否定的にNOということは言わないでございませぬ。みんなが歩み寄ろう歩み寄ろうという気持ちを持ちますから、その“Recognize”していくということ、あるいは“Encourage”する。“Encourage”するとか“Recognize”するということは、ご承知の通り言葉としては非常に柔らかな言葉でございませぬ。ですからロータリアンは理論をもっていても、それぞれの頭の中でそういうことを考えても、そういう

ものをお互いにぶつけ合うということよりも、人様の言うことを良く聞こうとする努力というものが必要であるということになってくる訳です。ですから私は最初に寛容すなわち善意の心と申しましたけれども、それにはやはり「忍耐力」というもの、この忍耐力というものが非常に必要になってくるということをごで申し上げたい。と言いましても、このロータリーの寛容とか忍耐力というものにつきましては、おそらく日本の皆様方、ロータリアンの多くは欧米諸国であるからキリスト教カトリックあるいはプロテスタント、そういうような信者が多いから当然そういう言葉を使うんだろが、我々日本人はどちらかというといふ教会的でございます。仏教徒が非常に多うございませぬから、いわゆるどうしてもその考え方は儒教道徳的な考え方になってくる。

ところが欧米のロータリアンの方々は多くはです。やはりイエスのバイブルのお教えによりまして「愛」ということが中心になってくるのであります。従って欧米の方々のロータリアンがしばしば使われる言葉、すなわち“Service”いわゆる奉仕という言葉、そのサービスという言葉はいささか日本人にとりましては意味がちよっと異なってくる。ロータリーにお入りになるまでの皆さん方もおそらくそうであったと思います。ロータリアンになられてから初めてサービスということが「あつ、奉仕か」というようにすぐにサービス自体が奉仕に結びつきますけれどもロータリーに入る前、例えばライオンズの皆さんもいらっしゃる。あるいはソプロチミストの方もいらっしゃる。青年会議所の方もいらっしゃる。それぞれ皆奉仕団体です。ライオンズクラブにしましても、ロータリーと同じ様な性格をもつ世界的な国際的組織、またソプロチミストといたしましてもこれも国際的な非常に高い一つの婦人の組織でございませぬ。またジュニアチェンバー(青年会議所)にいたしましても、インターナショナルな組織でございませぬから、それぞれの綱領を見ましてもそこにはすべて“Service”いわゆる奉仕であり、青年会議所では友情と奉仕と修練ということを行っている訳です。友情と奉仕と修練、ですからフレンドシップそれからトレーニングそれからサービスというのがジュニアチェンバー

の一つの綱領であるのです。その3本柱に立ってやっていますから、まあ奉仕ということにつきましては、さほど困難な解釈はないのであります。みんな素直に奉仕ということは、地域社会に対して、あるいは世界に対して自分の出来ることと同時に自分の周囲にある人と一緒にやろう、いわゆる“We serve, I serve”その二つの“We serve”と“I serve”というものが両立してですね、本当の意味の“Service above self”ということになってくると思えた方が分り易いのです。

“Service above self”いわゆる超我の奉仕ということは自分を犠牲にしなければできないことです。口では簡単に言えるけれども果たして本当に全世界のロータリアン120万人がですね、皆“Service above self”でやっているかということ、決してそうはないと私は思います。自分を犠牲にして殺してまでやれるパーフェクトなサービスというものはあるでしょうか皆さん。私達人間は非常に自分自身には寛大である。先ほどの寛容という言葉も善意という言葉も実はこれは裏を返せば自分に対して言っていることであると私は思います。自分がいつでも良い子になりたい、他に対して“other, all other”というものに対していったい何が出来るかということを考えるよりもまず自分だ。自分というものがここにあるということこそ、いわゆる他のものがあると。自分があって他があるという考え方。これでは先程から私が申しております本当の“Service above self”いわゆる自分をこえての奉仕にはならない。先に“other, all other”他の者の事を考えて自分という者がそこにあるという考え方をしなければ本当の意味のサービスにならないと思うのでございませぬ。

いわゆるこれもバイブルのコリント信徒への手紙というものの中にある1文でありますから皆さん方もお読みになったかもしませぬ。その中には、「愛は寛容にして慈悲あり、愛は嫉妬すべきものではなく愛は誇らずまた愛は嫌みにならず」ということをコリント信徒への手紙の中で言っております。私はこれはすばらしい教えの一つです。サービスというもの奉仕というものには必ず愛がなければならない。いわゆる“Love”ということ。日本では愛と言いますとまたそれはいろんな意味にと

られますが、特に男女関係の愛というものはすぐに頭にくる。コリントが言っていますこの「愛」というものは男女関係ではなくて、先程もフォーゲルさんが言われましたように向笠R.I.元会長が“Man kind is one”人間は皆一つである。ひとつであるということ、それは差別区別がないということ。みんな人間である。人間としてお互いに平等で、平等の中にお互いに“Dignity”をもってそして自ら与えられた自分の職業に誇りをもって、他の人のために尽くせるという事があってこそ初めて向笠R.I.元会長が言われた“Man kind is one”の精神に基づくものだと思います。だけどなかなかそういうことは難しい。コリントで申しております、先程の「愛は寛容にして慈悲有り」と。この時の愛というものには慈悲というものが大事なんですね。

私達は仏の教え、慈悲というものがございませぬ。今ちょうど蓮如上人の御遠忌で、たくさん本願寺にお参りに来ておられますが、真宗即ち浄土真宗の教えには「教行信証」がある。教える、行う、信ずるそれを証するという教えがあります。これを考えてみますと、何かというと、教えというのは、これは「衆生済度」なのです。私達はいつかは御仏の導きによってあの世へいかなければならない。それも本当に安楽死したい、あの世に無事にいきたいというのが衆生済度でございませぬ。そして、そういう衆生済度をするためには、まず御仏の教えというものを信じなきやならない。欧米のロータリアンの多くがイエス様の教えを信じられるように私達日本あるいは韓国や台湾やインドなど仏教徒がたくさんおりますところは、やはり御仏の教えというものを信じなきやならない。救いがあるように信ずるということが、まず大事です。次に信じたならそれで良いという訳じゃございませぬ。信じると同時に自分がそこで感じたこと、それをすぐ行動に移さなきやならない。これが「行」なんです。南無阿彌陀仏の念仏によって救われること、それを行動に移す。ただむやみやたらに行動に移すんじゃなくて、その行動の中には必ずから規制、ルールがあります。そういういわゆるルールというものは何であるかということ、やはり自分で「行」をするということなんです。少なくとも「行」をするということ。皆さん方の中には神道の方も仏

教徒の方もあるいは他の宗教を信じてらっしゃる方も、俺は宗教なんかは信じないよと言われる方もいられるかもしれない。俺はロータリーだけ信じている。それは大変結構なことでございます。それでも私はまずものを信ずる、信ずるならばその信じたことを裏付けらなければいかんと思います。

どうということが…、簡単なことです。皆さん方朝お起きになったら、まずやっぱり自分のお父様お母様、自分のご先祖、自分がここにあるということは自分の両親があって、そのまた両親があって、ご先祖があるからここに自分があることに、少なくともそれに対して感謝をする。まず、自分が朝げを頂く、お茶を頂くそういうことをする前に炊き立てのご飯をちょっとお供えする。お水をお供えする。お茶をお供えする。南無阿彌陀仏あるいは南無妙法蓮華經をあるいは、有り難うございませと手を合わすということは、これは手のひらが合うんですから合掌という。合掌するということはその中に仏様と自分とが一体化になるということなんです。合わす、一体化になる“Assimilate”するということなんです。“Assimilate”することによってご先祖様が自分たちを守っていただくという事を信じなさい。そういうために、自分と同じ物をお捧げすることがまずひとつの行です。まずこれがなければだめ。それから自分が幸せであれば幸せであるほど、幸せでない人の為に拜んであげなさい。みんなが幸せであるように。これは当然なことであろうと思います。

皆様方も時々、ニュースやいろんなものをご覧になって、例えばかわいそうな子供さんがおられる、もう命短い。しかし、日本では、なかなか手術が難しい。臓器移植も難しい。アメリカへ行けば何とか出来る。ところが、アメリカでそういう手術、移植をしてもらえる可能性がでも手術費が非常にかかる。一般庶民の方が8000万円もかかる費用をどうして作られるのでしょうか。そういうことを私はこの間もあるテレビでお母さんが何とか娘を助けてやってほしい。3つやそこいらの子供が本当に難病にかかっている。それを直すためにはアメリカへ行って、手術をしてもらわなければならぬ。先に2600万円の費用を出さなければならぬけれど、その莫大な費用はどうにもなりません。

それを涙ながらに訴えてられました。それを私体験しました時に、そういうことはいろいろなケースでございますけれどもその度に自分が、かわいそう、かわいそうだと思って、何がしかのお金を寄付してたんじゃ、これは大変なことでもあります。大変なことでありまして、その日自分が例えば1万円使うんであったら、その1万円のうちの3000円、いわゆる7000円は自分の食費とか必要な物に使って、後の3000円はそういう恵まれない人の為に積み立てて、そういう時にいざという時にその3000円を積み立てた何がしかを少しでも足しになるように使ってあげるということをしたらどうだろうと私はふと思ったのです。

ロータリアンならそれが出来るのです。1万円使う、その中から2000円でも良い、3000円でも良い、気の毒な方々の為にこれはライオンズの方でもソロプチミストの方でも青年会議所の方でもできる、いわゆる2000円でも3000円でも貯めていく、10日貯まれば3万円になる。1ヶ月貯まれば9万円できる。そうしたものがもし仮に1人から10人、10人から100人、100人から1000人集まったらばかにはならないお金になる。そういうことが出来るということは私は教行信証の教えの中での私は一つの行ではなからうか。私はこの7月からロータリーファンデーションのアジアを代表するトラスティーに選ばれたので、ロータリーファンデーションに対しての寄付ばかりを申し上げるつもりはございません。もちろん、ロータリーファンデーションのみんなの善意の心を集めていただいて、それでロータリーのすばらしい内容が多くの方々に理解していただくことができたならば、これほど有り難いことはないわけです。でもそれよりもっと身近なことが出来る、今言ったような些細なもの、些細なものをためていってこそ初めてその貯まったものを“all other”の為に使えるということが出来たらどうでしょうか。私は是非皆さん方にそれをお願い申しあげたい。

己の身なら何でもするけれども他の為にはそんなにすることはないんだ、という考え方が今万人の考え方の様になっているわけでありまして。でも、私はやはりそういう意味においてかつて孔子が自分の弟子の曾参に向かって私の生涯は唯一筋の

理想でつらぬいているということを知り、曾参に言いました。一筋のその自分の道理というものによって自分の生涯は貫いているということを知り、曾参に言いました。ところが、他の弟子はいろいろその一筋の道理というものがあるのか、なかなか分からない。で、その兄弟子の曾参に師匠の言っているそのことはどういふことかということを知り、曾参は孔子先生のおっしゃっている道は忠恕であるということである。忠恕で恕というのは如しというのと心からなっているのでございます。それで構成されてる。ですからいわゆる忠恕の恕というのは如しそれから心でありますからこれを読みかえりますと許すという言葉になります。許す“Forgive me”いわゆる許されるということ。人間は一つ、もの凄いい切札があるんですね。なんでもその“Forgive me”いわゆる許して下さい。ちょっとしたことで許して下さい。許して下さいという言葉が使えんということは、人間にとってですねこれは良い面と悪い面があるわけです。何か悪い事したら直ぐに許して下さい、お許し下さいというような「許」これ許可の許ですね。この許すほうであります。こちらの私の言った恕すほう、この恕すというのほうですね、いわゆる心の寛容さを言っているわけでありまして。そういう意味におきまして、私は儒教の中の教えの中にも、このいわゆる寛容というものの難しさ、そしてその寛容をどの様に使うかという難しさをちゃんと孔子は教えている。だから教行信証の中にも信ずると、そのものを本当に許すということ、いわゆる許すということはそれだけ理解しなさい。理解すると同時にそのものを実行に移さなさい。実行に移してこそ初めて最後の証、あからさまにするということ。このあからさまにするということは、いわゆる自分たちが仏の教えというものを自分の生涯の裏付けにしていくことができると。

芥川龍之介の「蜘蛛の糸」という短編がありますが、そういう中に、大強盗であったカンダタの話が出ています。お読みになりました方もあると思いますが、蜘蛛の糸のほとりを歩いてふと下を見るとその地獄に大泥棒である、もう悪いことばかりしてたカンダタの糸が落ちていた姿が見えた。蜘蛛

はふっと、この男は悪い奴には違いない。しかし、この男にも善意が一つだけある。それを許してやろうと。どういふことかというこの大泥棒がある日、朝早く泥棒から、泥棒から帰ってくるというもおかしいですけど帰ってくる時に足下に小さな虫がいた、えいっと潰してやろうと思って足で潰しかけたんですけど、この虫にも命があるわい、何とかこの命を助けてやろう、いうわけでその虫を道路脇に草むらのところへ除けてやった。そういう大泥棒にもそういうやさしい心的一面があるということを知り、曾参は知っておられた。もがき苦しんでいるカンダタそりゃかわいそうやなとふっと見るとその横に蜘蛛が糸をぎゅーと引っ張っている。その糸を蜘蛛は取り出されて、蓮池から地獄の方にするするすると落としやした。もがいているカンダタは上から何か銀色の糸がすーと降りてくる。これは何か自分を助けくれるのかもしれない。これにすがっていったら天国極楽へいけるということで一生懸命その糸を手繰ってですね、その細い蜘蛛の糸に自分の大きな体を巻き付けて上って行くわけですね。なかなか遠いんですね。上れども上れども天国は遠い。ふとくたびれてきて後ろを見たらですね、もういっぱいその自分の後ろにですね、同じように糸をたぐって天国へ行こうという人達がぶら下がってきた。これはあぶない、こんなことしたら自分も天国へは行けんわいというので負い払った。すがりついてくる他の人間達を追い払ってその蜘蛛の糸を自分の足下からぶつと切ってしまった。それをご覧になった蜘蛛はああもうこの男はだめだ。己が助かろうとその一途でみんなを犠牲にしてしまった。こんな男を生かしていてもしょうがない。やがて蜘蛛の糸は切れてしましましてカンダタはまた再び地獄のそこへ落ちていったというお話がございませぬ。

皆様方お読みになったときにどうお思いになったでしょうか。私は人間というものはそれは生きている間善意な顔をしているかもしれませんが、やはりいつも何か後悔ばかりしてる。後悔ばかりするいわゆるその自分が自分を省みるということ自体を蜘蛛はお教えになっているわけですね。人間は自分だけ一人が良い子になってもだめだ

と。みんな一緒に共に幸せになるために自分があ
る時には犠牲にならなきゃならないということ
をお教えになっているわけでありませう。まさに
これが私は“Service above self”であると思
うんです。それではですね、もしも皆さん方が
船に乗られて、難破されてふっと気が付いたら
隣に山田さんと私が。板切れが一つだけ来た、
ウアッとして二人がその板切れにしがみついた。
山田さんの方が体重が重たい。私は山田さん
どうか、あっち行ってくれ。私が助かりたい
ためにその板にしがみつきます。しかし山田
さんはいや私がこれ絶対しがみつくんだと、
二人で喧嘩してしまってその板を奪いあつて
いる間に二人とも死んでしまったということ
になります。そんなことはつまらんことなん
です。だからどっちかがジャンケンするわけ
にいきません。私は山田さんの方が若いから
私は死んでもかまいません。そうだったら、
山田さんに板を譲ります。そうすれば私は極
楽へ行けるかもしれない、というようなこと
を考えました。これは浅はかな知恵でありま
す。こんな知恵ではいけない。やはり二人が
助かるように考えなきゃいかん。しかしなが
らたして皆さん方そういう危険な場面に会っ
たときに考えるでしょうか。それだけの余裕
があるでしょうか。映画で大当たりいたしました
タイタニック号、ご覧になった方も多いい思
います。氷山、たかが氷山と思っておりました
がその氷山にぶつかってあれだけの豪華船が一
瞬の間に沈んでしまった。随分多くの方がボ
ートで奪い合いをした。人間というものには
困難の中に入れば、冷静であった人も気が狂
ってしまうほどもう人を押しつけてしまうこ
とになります。私達ロータリアンは全世界に
120万人おりますけれども、果たしてみない
ざという時にそういうような一枚の板切れを
分け合う事が出来るでしょうか。おそらく一
枚の板を120万人がみんな奪い合うのでは
なからうかと私は思うんです。カンダタの話
は人間本来の生というものを表したことであ
ると思うんです。私達は少なくともそういう
ような事事を考えながら「衆生済度」で生き
てくためにはやはり自分の出来ることからや
っていかなくちゃならない。そのためにはい
つも私が思います。自分の出来ることから無
財の七施、7つの施しと

いうものがあります。これは私は人間にとつ
てロータリアンにとってまたライオンズの方
にとつてもソロブチミストの方にとつても
青年会議所にとつても人間がこれなら出来
るということをお教えた一つは行動、アクシ
ョンでなきゃならないと思っております。そ
れはまず最初に眼施、眼なんです。いつでも
こやかな眼をしてあげる、にこやかな眼を
しているということであつてみんながその顔
を拝見するだけで何か自分が幸せになりそ
うに思ふのです。

山田さんね、今日は沢山の同期のガバナー
がいらして嬉しうでしょう。これもあなた
のこやかな顔を見たいが為にみんないら
して。私はそういうことが友情の大きな結
びつきになっていくと思ふんです。ですから
そういう眼施、それから次は和顔施です。眼
だけではなくて顔全体で施しをしてあげる。
口でよういらして、とやうも顔と眼とが
ですね、何や来たんかというやうなことだ
とすぐ出てきますね。それではいけないと
思ふ。やっぱり眼も顔も全てで、いらして
やませ。人をもてなす心、人を思いやる心
、そういうものが顔や眼に出てきてこそ始
めて眼施、和顔施ということになります。そ
してその言葉、言辭施、言葉の施し。これ
は何とコンプリメントではありません。お愛
想ではありません。いわゆる本当にあなた
のために、先程谷口市長が言われましたよ
うにりっぱな建物は、8月にしか間に合わ
ん。山田ガバナーは涙をのんで、この体育
館でこうしたいろいろな設営も大変なん
です。亀岡・園部のロータリーの皆さん方
が本当に力を合わせてこれだけの設営をな
された。懇親会は申し訳ないけれども、京
都まで行ってもらわなくちゃいかん。本当
はここででもできんことはなかつたん
ですけども、私は相談を受けた時に山田ガ
バナーが大変苦労しておられた。これが済
んで京都まで移動してもらうのに大変だと
、私はあなたの気持ちがあつたらば、あな
たがみなさんをお迎えしようという気があ
つたら京都でも大阪でも大津でもどこ
でもいいんじゃないか。速やかに皆さんが
移動していただくやうに。こうした会合
は往々にして長引きます。でも長引かない
やうにスピーチを時間通り私も終わらな
くちゃいかん。ピ

シッと終えてそして速やかに移動して
いただいてこそ、始めてみんなもやれやれ
という気持ちで懇親会場に望んでいただ
けるもんだと私は思うんです。そういう
あなたの心が皆さん方に伝わっていく、
よういらしてやんな、有り難いなという
ことが、言辭施。そして身施、体で施し
をする。身の施しというのはなにも体
を使えじゃないんです。相手を“Respect”
してあげなさい。尊敬してあげなさい。
相手を思いやってあげなさい。相手の立
場になるということが身施なんです。ロ
ータリアンはこれが抜けていると思ふ
んです。自分らのクラブだけが良けりや
ええ。そうじゃないんです。

自分のクラブを開放して“other”クラ
ブ、他のクラブともっと交流しなけりや
いけない。いわゆる縄張りのものじゃな
くてみんながお互いに手をつなぎ合っ
て、輪を作っていくやうに、リングを作
っていくことがいわゆる“Peace”輪なん
です。リングを作ることが本当の“Peace”
和に結びついていくもんだと思つて
いただきたいと思ふんです。そしてその
中身は心です。心の施し、心を使う施し。
心を使わなくちゃいかん。そして次は
房舎施、房舎施というのは要するに自
分の住んでいる所、住んでる所を解放
してあげる“Home hospitality”です。
それができなくちゃいけない。そして
最後の床座施。床座施というのは床机
の床、座する、座る。床座施は自分の
座っているところを譲ってあげる。立
っている人がいたら、譲ってあげる。疲
れてそうな人がいたら、譲ってあげる。
少しでもそれを譲ってあげるといふこ
と。これは私は英語で一番素晴らしい
言葉、“After you”なんです。あなた
の後で。“Excuse me, After you”
“Thank you very much” そうですね、
私は“After you”の心というものが
床座施というやうなもんです。

今申しましたやうに眼施、和顔施、顔
の施し、そして次は言辭施、言葉の施
し。それから身施“body”で施す。そ
れから次は心“inside”心施。そ
して房舎施、住んでるところ。それから
最後に床座施。腰掛ける、座る床座施。
そうした7つの施しというのは、財が
なくなつてもできるでせう。是非これ
を実行していただくことによつて、すば

しいロータリーの心というものが皆様
方の会社を通じて、それから工場を通
じて、そして家庭からその隣近所、地
域社会に私は広く通じているものであ
ると思ふんです。これが今年キンロス
会長が言われた“Rotary cares”ロー
タリーの心を広く皆さん方の手元から
発信していかなくちゃいけない。受信
じゃいけない。発信していかなくちゃ
いけないんです。どうかひとつこの大
会を機会に皆さん方がすばらしいロー
タリーの心を全世界に向かってそれぞ
れのクラブから発信していただきたい。
本当にそのことを心からお願ひ申し
まして、私のお話を終わります。ご清
聴ありがとうございました。

